

イクソンドン韓屋村における転用韓屋の外観特性 —地区単位計画の影響に着目して

The Appearance Characteristics of Diversion Hanok in Ikseon-dong Hanok Village
-Focusing on the Impact of District Unit Plan

建築計画・都市計画／論文

建築デザインコース

長津 咲希

Nagatsu Saki

研究目的

韓国の伝統木造住宅である韓屋は、水回りが外にあるなど現代のライフスタイルに合っていない点や、維持コストがかかる点などから住宅として住み続けることが難しく、現代のニーズに合わせて転用しながら残していくことが韓屋を保全していく上で有効だとされている。

ソウル特別市にあるイクソンドン韓屋村は、転用韓屋が密集する商業地域であり、韓屋に自由度の高い改修がされていることが特徴である。本研究では、イクソンドンの転用韓屋の外観特性と、都市計画の一類型である地区単位計画を照らし合わせ、地区単位計画がイクソンドン韓屋村の転用韓屋の外観特性にどのように影響しているのかを明らかにすることを目的とする。

研究方法

まず初めに、イクソンドンの地区単位計画を他地域の地区単位計画と比較し、すべての地域で共通している項目と、イクソンドンだけにある項目・イクソンドンだけにある項目を確認し、イクソンドンの地区単位計画の特性を明らかにした。次に、現在のイクソンドン韓屋村の転用韓屋の外観特性の実態を把握するため、2024年6月に写真撮影を行い、その後、イクソンドンの地区単位計画内の韓屋に関する規制項目と、既往研究、KJ法から多重対応分析の評価指標を整理し、分析を行った。分析結果からクラスター分析、類型化を行い、イクソンドン韓屋村の韓屋の外観特性を明らかにした。最後に類型化結果を地区単位計画や業種など様々な要素と照らし合わせ、地区単位計画を中心に現在の外観特性にどのように影響しているのかを考察した。

研究結果

多重対応分析とクラスター分析の結果、イクソンドンの転用韓屋の外観特性は①伝統考慮型②外壁個性型③装飾型④伝統保全型⑤装飾看板型の5類型に分けられた。地区単位計画と照らし合わせると、伝統考慮型・装飾型・伝統保全型では規制項目をよく遵守しているが、外壁個性型と看板装飾型で多くの違反が見られた。これらの類型を地図にプロットすると韓屋保存区域内の中心部は伝統考慮型と伝統保全型が集まっており、韓屋保全区域内では伝統性が感じられる韓屋が多いことが明らかとなった。さらに、業種の分布と規模を見ると、カフェとして営業している韓屋は敷地も広く中庭も残っており、韓屋保全区域の中心部にまとまりが見られるため、イクソンドンに残る伝統的な韓屋はカフェへ転用される場合が多いという可能性が示された。



図1 伝統考慮型の韓屋



図2 外壁個性型の韓屋



図3 装飾型の韓屋



図4 伝統保全型の韓屋



図5 装飾看板型の韓屋

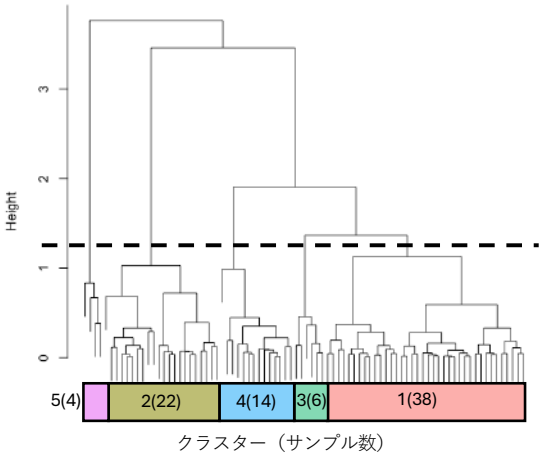


図6 デンドログラム

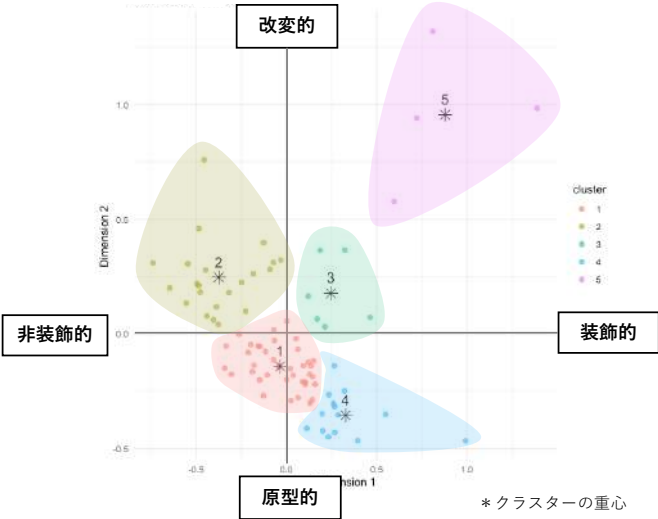


図7 クラスタと重心座標

表1 類型別地区単位計画の遵守事項

地区単位計画 規制項目	伝統考産型 (38)	外壁個性型 (22)	装飾型 (6)	伝統保全型 (14)	装飾看板型 (4)
瓦	×	?	○	○	○
漆木	○	×	○	○	○
瓦葺	×	×	○	○	○
土俗主観的材料	○	○	○	○	○
外壁の色	○	×	○	○	○
屋根葺葺	○	○	○	○	×
庭上葺	○	×	×	○	×
外廊付置物	○	×	×	×	×
看板面装	○	○	○	○	×
看板大きさ	○	○	○	○	×
看板葺葺	○	○	○	○	×
看板葺葺	○	○	○	○	×
看板の枚	○	○	○	○	×
動く発光広告物	○	○	○	×	○
照明方式	○	○	○	×	○
光源の色	○	×	○	○	○
光源露出	○	×	×	×	×
光の働き	○	○	○	×	×

◎: よく守っている ○: 守っている ×: 違反している ? : 判別不可

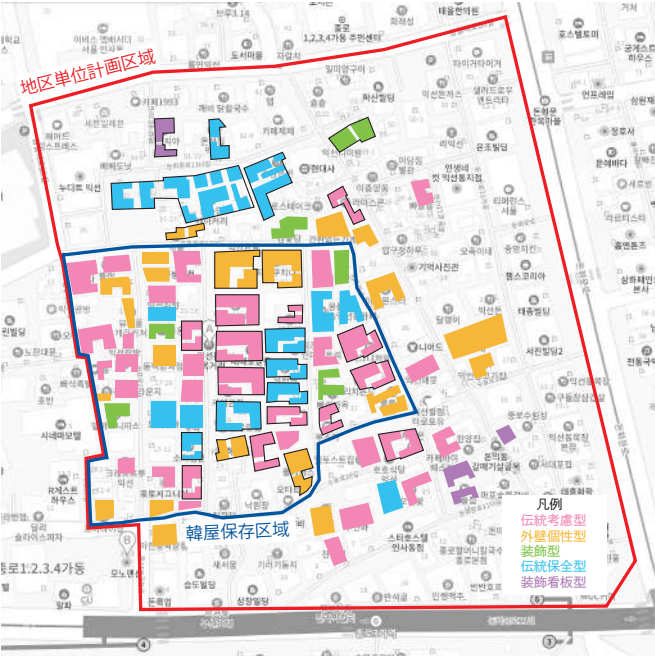


図8 各類型の分布

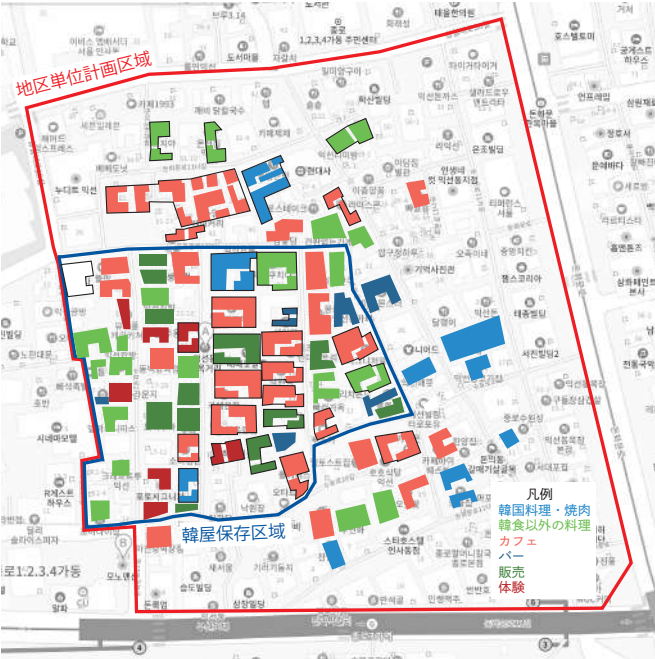


図9 業種の分布と規模